

『自分で見つける』

茨城県

十王町武道振興会

中学2年 佐藤 亜沙美

私の毎日に必ず剣道があって、あっという間に一年半が過ぎました。

道場での稽古を終え、防具の手入れをして私の一日が終わります。面倒な事やあきらめが早い私が、いつのまにか、剣道が生活の一部になっていました。辛いし行きたくない日もあるけど、その繰り返す毎日が、私の心を知らず知らずのうちに変えて、大切な事がある事に気づかせてくれたのでした。

一年前、私は携帯電話を片手に、一人で姉の住む横浜に行きました。広い東京駅での電車の乗り継ぎ、切符もICカード、何も迷う事なくたどり着きました。私の生活には、パソコンも携帯電話も当たり前があり、わからない事は人に聞かなくても検索すればすぐに答えが出てきます。便利な事が当たり前過ぎて、自分でも無意識に、物事を簡単に考える様になっていました。いつの間にか、私は近道ばかりを追い求めていたのです。

しかし、剣道は簡単にはいきませんでした。毎日基本を繰り返し、何本も何百本も素振りをします。近道ばかりを考える私は、「稽古がつまらない」と思った時期もありました。「すぐに上達して、試合で勝ちたい」と簡単に考えていたのです。自分の理想とできない現実に迷いながら、半年が過ぎました。何も変わっていないはずの私が、たった一本真っ直ぐなメンを打つためだけに、泣きながら稽古をしていました。できなくて、帰りの車の中で泣く事もありました。自分のイラだちを、母にぶつける事もありました。毎日、毎日稽古をしていくうちに、「悔しい」という感情、「もっと頑張れる」という思いが、いつしか私の迷いを消していました。つまらないと思っていた稽古を、夢中で頑張る私に変わっていました。近道を探す私ではなくなっていたのです。真っ直ぐなメンを打てるまで、何本も何本も稽古を続けました。そしてある日、先生に「そう、それだよ。」と言われた一本がありました。そのメンは、言葉や理屈ではなく、私の身体と、そして竹刀の感覚で感じる真っ直ぐな一本でした。心の底から「できた」と今まで感じた事のない嬉しさでした。できない事はすぐにあきらめ、わからない事は、パソコンを頼りに、なんとなく上手くやってきた私でした。答えはすぐに見つかるけど、そこに達成感などありませんでした。でも、この一本が打てる様になるまで、何ヶ月もかかりました。足の皮もむけたし、手に固いマメもできました。一つの技ができる様になるまで、私は自分で頑張る事ができたのです。初めて感じた達成感。この達成感が、私を大きく変え、明日も頑張ろう、もっと頑張ろうと、次の原動力となったのです。

今年、館長である牛坂先生が還暦を迎えられ、百回稽古を目標にしているとお話がありました。先生方の稽古を目の当たりにすると、正座をしている私の背筋がより一層緊張し

ます。先生の構えた姿に、言葉では表わせないものを感じました。剣道に終わりはなく、すぐに答えが出ないからこそ、続けるのかもしれないと思いました。

剣道を始めて一年半。私はまだ一步踏み出し始めたばかりです。みんなの様に、沢山の技もできない私です。でも、剣道と出会って、大切な経験をする事ができました。一つの事ができるまで、どうして出来ないのかと迷い、どうしたら出来るのかと悩み、あきらめなくなる気持ちと葛藤して、私はそれを自分で乗り越える事ができました。何かを頼りに近道をせず、自分の心と向き合う事ができました。剣道を始めなければ、私は心と身体で経験する大切さに気づけなかったかもしれません。急いで近道するよりも、私は遠回りをして自分で見つけることが、一番大切だと学びました。自分の弱さに目を背けることなく、次の一步も、その先も、私は自分で答えを見つけていきたい。